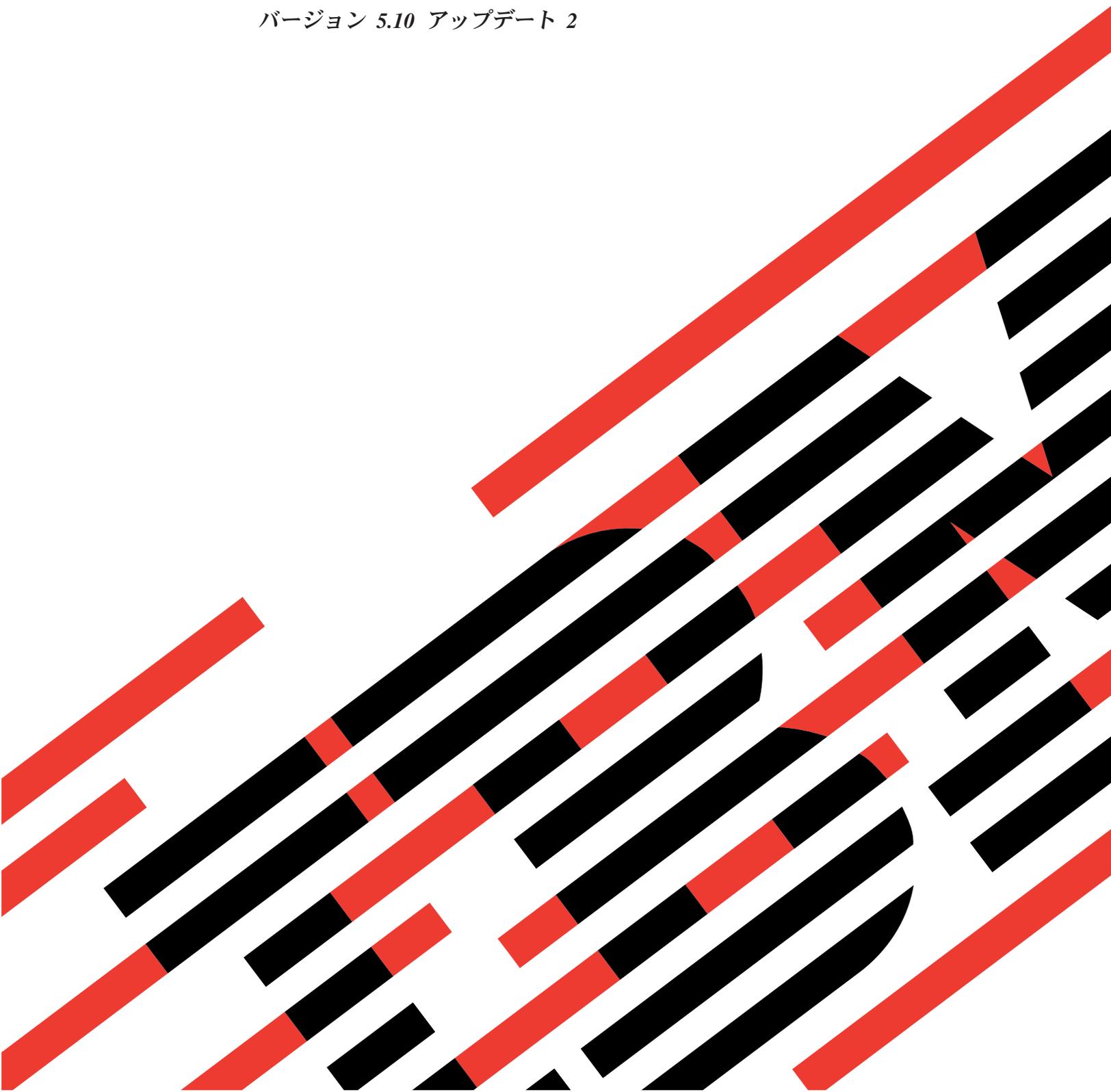




IBM Systems

IBM Director  
リリース情報

バージョン 5.10 アップデート 2







**IBM Systems**

**IBM Director  
リリース情報**

*バージョン 5.10 アップデート 2*

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。  
<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは  
<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM Systems  
IBM Director  
Release Notes  
Version 5.10 Update 2

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.5

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、  
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2005, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

# 目次

<b>第 1 章 このリリースについて</b> . . . . .	1
このリリースの新機能 . . . . .	1
製品修正履歴 . . . . .	6
Authorized Program Analysis Reports . . . . .	6
BladeCenter シャーシ管理対象オブジェクト . . . . .	7
検出 . . . . .	7
資料およびオンライン・ヘルプ . . . . .	7
ハードウェア状況 . . . . .	8
IBM Director コンソール . . . . .	8
インベントリ . . . . .	8
その他 . . . . .	9
<b>第 2 章 インストールおよびアップグレードの情報</b> . . . . .	11
一般的なインストールに関する注意 . . . . .	11
IBM Director コンポーネントのバージョン互換性 . . . . .	11
アップグレード・パッケージの入手 . . . . .	12
System i および xSeries サーバー用アップグレード・パッケージのダウンロード . . . . .	13
System p サーバー用アップグレード・パッケージのダウンロード . . . . .	14
IBM Director サーバーのアップグレード . . . . .	14
AIX 上の IBM Director サーバーのアップグレード . . . . .	15
i5/OS 上の IBM Director サーバーのアップグレード . . . . .	15
Linux 上の IBM Director サーバーのアップグレード (xSeries) . . . . .	17
Linux 上の IBM Director サーバーのアップグレード (System p5, pSeries) . . . . .	18
Windows 上の IBM Director サーバーのアップグレード . . . . .	18
IBM Director コンソールのアップグレード . . . . .	19
AIX 上の IBM Director コンソールのアップグレード . . . . .	19
Linux 上の IBM Director コンソールのアップグレード (xSeries) . . . . .	19
Linux 上の IBM Director コンソールのアップグレード (System p5, pSeries) . . . . .	20
Windows 上の IBM Director コンソールのアップグレード . . . . .	20
IBM Director エージェントのアップグレード . . . . .	21
AIX 上の IBM Director エージェントのアップグレード . . . . .	21
i5/OS 上の IBM Director エージェントのアップグレード . . . . .	21
Linux 上の IBM Director エージェントのアップグレード (xSeries) . . . . .	22
上の IBM Director エージェントのアップグレード (System p5, pSeries) . . . . .	22
Linux (64 bit) 上の IBM Director エージェントのアップグレード (Intel Itanium システム) . . . . .	23
NetWare 上の IBM Director エージェントのアップグレード . . . . .	24
Windows (32 bit) 上の IBM Director エージェントのアップグレード . . . . .	24
Windows (64 bit) 上の IBM Director エージェントのアップグレード (Intel Itanium システム) . . . . .	24
IBM Director コア・サービスのアップグレード . . . . .	25
Linux 上の IBM Director コア・サービスのアップグレード (xSeries) . . . . .	25
Linux 上の IBM Director コア・サービスのアップグレード (System p5, pSeries) . . . . .	25
Windows 上の IBM Director コア・サービスのアップグレード . . . . .	26
<b>第 3 章 既知の制限、問題、および予備手段</b> . . . . .	27
制限 . . . . .	27

ベースボード管理コントローラーを使用するインバンド管理操作は、SUSE Linux Enterprise Server 9 (Service Pack 2 または 3) あるいは Red Hat Enterprise Linux AS、バージョン 4、Service Pack 3 が稼働する一部の IBM eServer サーバーで使用できない。 . . . . .	27
イベント・アクション計画ビルダーで、イベント・テキストを入力してイベン トをフィルタリングすることが許可されない。 . . . . .	27
不良ストライプ・エラーによってハードウェア・イベント (アラート) が生成 されない。 . . . . .	27
各管理対象システムのイベント・アクション・プランには、複数のイベント・ アクション・プランが存在している場合でも 1 つのリソース・モニターし きい値しか許されません。 . . . . .	28
IC46865: (Windows システムの場合のみ) カテゴリにカスタム・パッケージ を入れてカスタム・パッケージ・エディターでリブート・オプションを使用 すると、ソフトウェア配布ジョブが失敗する場合があります。 . . . . .	28
インベントリー照会ブラウザで IBM Director エージェントが IBM Director コア・サービスとして表示される。 . . . . .	28
拡張管理モジュールが取り付けられた BladeCenter 格納装置に対する MPCLI setsmnetwork コマンドが失敗する。 . . . . .	28
IBM Director コンソールから管理モジュール Web インターフェースを開始 して 3 分以内に管理モジュール Web インターフェースのリモート制御タ スクを開始する必要がある。 . . . . .	28
IBM Director コア・サービスがアンインストールされた後に slpd および Linux を実行する管理対象システムが誤ってレベル 1 管理対象システムと して検出される。 . . . . .	29
問題 . . . . .	29
ハイパー・スレッディングが使用可能にされているとき、CPU が 1 つしか存 在しない場合でも、「リソース・モニター」タスクは 2 つの CPU モニタ ー・リソースを表示する。 . . . . .	29
管理対象システムの 1 つのハードウェア・コンポーネントにシリアル番号が 定義されていない AIX 管理対象システムで特定タスクを実行すると、 cimserver が失敗する。 . . . . .	29
予備手段 . . . . .	31
OpenWBEM の実行中に IBM Director サーバー、IBM Director エージェン ト、または IBM Director コア・サービスのインストールが失敗する。 . . . .	31
特定のハードウェア・プラットフォームで VMware ESX コンソール・バージ ョン 2.5.2 が稼働する管理対象システムのサーバー構成マネージャーおよび 管理プロセッサのコマンドライン・インターフェースが失敗する。 . . . .	32
fwupdate コマンドが拡張管理モジュールのファームウェアを更新しない。 . . . .	33
複数のアラート ID が指定されていると setalerttrigger コマンドが失敗する。 . . . .	33
ベースボード管理コントローラー管理対象オブジェクトに対する管理プロセッ サー・アシスタント・コマンドライン・インターフェース・タスクが失敗す る。 . . . . .	33
SUSE LINUX または Red Hat Linux が稼働する一部の xSeries サーバーでシ ステム・ヘルス・タスクが機能しない。 . . . . .	34
<b>第 4 章 資料の更新</b> . . . . .	35
VMware 用の SNMP アクセスおよびトラップ転送を使用可能にする . . . . .	35
<b>付録 A. 関連情報</b> . . . . .	39
<b>付録 B. カスタマー・サポートへの連絡</b> . . . . .	43
依頼する前に. . . . .	43

オンライン・ヘルプの入手 . . . . .	43
電話によるヘルプの入手 . . . . .	44
<b>付録 C. 特記事項および商標 . . . . .</b>	<b>45</b>
特記事項 . . . . .	45
商標 . . . . .	46



---

## 第 1 章 このリリースについて

本書には、IBM® Director 5.10 アップデート 2 (IBM Director 5.10.2 と呼ばれます) のリリース情報が記載されています。

これらのリリース情報に対する今後の更新、および本書のコピーについては、IBM Director の Web サイト [www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems\\_management/ibm\\_director/](http://www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems_management/ibm_director/) を参照してください。

---

### このリリースの新機能

このトピックでは、IBM Director 5.10 アップデート 2 における新規機能および機能拡張に関する情報を提供します。

#### 追加のハードウェア・サポート

IBM Director 5.10 アップデート 2 は、IBM Director を使用して管理できる以下のハードウェアに対して新規のサポートまたは再確認されたサポートを提供します。

##### IBM BladeCenter®

- IBM BladeCenter HS20 (モデル 7981)
- IBM BladeCenter JS21
- IBM BladeCenter H シャーシ
- IBM BladeCenter T シャーシ

##### IBM IntelliStation®

- IBM IntelliStation A Pro Express
- IBM IntelliStation M Pro Express
- IBM IntelliStation Z Pro Express

##### IBM xSeries®

- IBM xSeries 100
- IBM xSeries 206m
- IBM xSeries 226
- IBM xSeries 306m
- IBM System x3650T
- IBM System x3800
- IBM System x3850
- IBM System x3950

##### その他のハードウェア

- BladeCenter PCI 拡張ユニット II
- BladeCenter用 Brocade 4 GB ファイバー・チャネル SAN スイッチ・モジュール
- Cisco® SFS 7008 InfiniBand サーバー・スイッチ (ROHS 準拠)

- BladeCenter iSCSI 拡張カード (ROHS 準拠)

## IBM Director サーバーおよび IBM Director コンソールのインストールでサポートされる追加オペレーティング・システム

### 注:

IBM Director 5.10 アップデート 2 は、追加の System i™、System p™、および xSeries サーバーでの IBM Director サーバーおよび IBM Director コンソールのインストールをサポートします。

1. IBM Director 5.10 アップデート 2 は System z™ では使用できません。そのため、このリリースでサポートされる追加の System z サーバーはありません。
2. サポートされるオペレーティング・システムの完全なリストについては、次の Web ページを参照してください。

- IBM Systems ソフトウェア・インフォメーション・センター:  
[publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_r\\_requirements.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_r_requirements.html)
- IBM ServerProven®: [www.ibm.com/servers/eserver/serverproven/compat/us/](http://www.ibm.com/servers/eserver/serverproven/compat/us/)

### xSeries サーバー

- Red Hat Enterprise Linux® AS および ES バージョン 3.0 (Intel® x86 (Update 6) 用)

注: AMD Opteron または Athlon64 プロセッサ搭載のシステムには、Update 5 以降が必要です。

- Red Hat Enterprise Linux AS および ES バージョン 4.0 (AMD64 および EM64T 用) (Update 3 および 4)
- Red Hat Enterprise Linux AS および ES バージョン 4.0 (Intel x86 (Update 3) 用)
- SUSE Linux Enterprise Server 9 (AMD64 および EM64T 用) (サービス・パック 2 および 3)
- SUSE Linux Enterprise Server 9 (x86 用) (サービス・パック 2 および 3)
- Windows® Server 2003、Enterprise、Standard、および Web Edition (リリース 2)
- Windows Server 2003、Enterprise、Standard、および Web x64 Edition (リリース 2)

### System i サーバー

- i5/OS® バージョン 5 リリース 4
- Red Hat Enterprise Linux AS バージョン 4.0 (IBM POWER™ 用) (Update 3)
- SUSE Linux Enterprise Server 9 (IBM POWER 用) (サービス・パック 3)

### System p サーバー

- i5/OS バージョン 5 リリース 4
- Red Hat Enterprise Linux AS バージョン 4.0 (IBM POWER 用) (Update 3)

注: IBM BladeCenter JS21 では Update 3 が必要です。

- SUSE Linux Enterprise Server 9 (IBM POWER 用) (サービス・パック 3)

注: IBM BladeCenter JS21 ではサービス・パック 3 が必要です。

## IBM Director により管理できる追加オペレーティング・システム

特に記述が無い限り、IBM Director 5.10 アップデート 2 はレベル 2 (IBM Director エージェント)、レベル 1 (IBM Director コア・サービス)、およびレベル 0 (「エージェントレス」) システム管理を、以下の追加オペレーティング・システムに対して提供します。

注:

IBM Director 5.10 アップデート 2 は、追加の System i、System p、および xSeries サーバーでの IBM Director サーバーおよび IBM Director コンソールのインストールをサポートします。

1. IBM Director 5.10 アップデート 2 は System z では使用できません。そのため、このリリースでサポートされる追加の System z サーバーはありません。
2. サポートされるオペレーティング・システムの完全なリストについては、次の Web ページを参照してください。

- IBM Systems ソフトウェア・インフォメーション・センター:

[publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_r\\_requirements.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_r_requirements.html)

- IBM ServerProven: [www.ibm.com/servers/eserver/serverproven/compat/us/](http://www.ibm.com/servers/eserver/serverproven/compat/us/)

### xSeries サーバーおよび Intel 互換システム (32 ビット・オペレーティング・システム)

- Red Hat Enterprise Linux AS、ES、および WS バージョン 3.0 (Update 5 および 6)

注: (レベル 2 およびレベル 1 サポートのみ) AMD Opteron または Athlon64 プロセッサ搭載のシステムには、Update 5 以降が必要です。

- Red Hat Enterprise Linux AS、ES、および WS バージョン 4.0 (Update 3)
- SUSE Linux Enterprise Server 9 (x86 用) (サービス・パック 2 および 3)
- 以下のゲスト・オペレーティング・システムを備えた VMware ESX Server バージョン 2.5.2。

注: IBM Director は、以下のゲスト・オペレーティング・システムに対してレベル 0 またはレベル 1 のサポートを提供しません。

- Novell NetWare バージョン 6.5 (サービス・パック 2 が必要)
- Red Hat Enterprise Linux AS、ES、および WS バージョン 3.0 (Update 5 が必要)
- Red Hat Enterprise Linux AS、ES、および WS バージョン 4.0 (Update 2 が必要)

- SUSE Linux Enterprise Server 8 (x86 用) (サービス・パック 3 が必要)
- SUSE Linux Enterprise Server 9 (x86 用) (サービス・パック 2 が必要)
- Windows 2000、Advanced Server、および Server Edition (サービス・パック 3 以降が必要)
- Windows Server 2003、Enterprise、Standard、および Web Edition (サービス・パック 1 が必要)
- Windows XP Professional Edition (サービス・パック 1 および 2 が必要)
- Windows Server 2003、Datacenter、Enterprise、Standard、および Web Edition (サービス・パック 2)
- VMware ESX Server バージョン 2.1 の追加ゲスト・オペレーティング・システム:
  - Red Hat Enterprise Linux AS、ES、および WS バージョン 3.0 (Update 5 および 6)
  - Windows Server 2003、Enterprise、Standard、および Web Edition (サービス・パック 2)
- VMware ESX Server バージョン 2.5 の追加ゲスト・オペレーティング・システム:
  - Red Hat Enterprise Linux AS、ES、および WS バージョン 3.0 (Update 5 および 6)
  - SUSE Linux Enterprise Server 9 (x86 用) (サービス・パック 2 および 3)
  - Windows Server 2003、Enterprise、Standard、および Web Edition (サービス・パック 2)
- VMware ESX Server バージョン 2.5.1 の追加ゲスト・オペレーティング・システム:
  - Red Hat Enterprise Linux AS、ES、および WS バージョン 3.0 (Update 5 および 6)
  - SUSE Linux Enterprise Server 9 (x86 用) (サービス・パック 2 および 3)
  - Windows Server 2003、Enterprise、Standard、および Web Edition (サービス・パック 2)
- VMware GSX Server バージョン 3.1 の追加ゲスト・オペレーティング・システム:
  - Red Hat Enterprise Linux AS、ES、および WS バージョン 3.0 (Update 5 および 6)
  - Windows Server 2003、Enterprise、Standard、および Web Edition (サービス・パック 2)
- VMware GSX Server バージョン 3.1 の追加ホスト・オペレーティング・システム:
  - Windows Server 2003、Enterprise、Standard、および Web Edition (サービス・パック 2)
- VMware GSX Server バージョン 3.2 の追加ゲスト・オペレーティング・システム:

- Red Hat Enterprise Linux AS、ES、および WS バージョン 3.0 (Update 5 および 6)
- Red Hat Enterprise Linux AS、ES、および WS バージョン 4.0 (Update 3)
- SUSE Linux Enterprise Server 9 (x86 用) (サービス・パック 2 および 3)
- Windows Server 2003、Enterprise、Standard、および Web Edition (サービス・パック 2)
- VMware GSX Server バージョン 3.2 の追加ホスト・オペレーティング・システム:
  - Windows Server 2003、Enterprise、Standard、および Web Edition (サービス・パック 2)
- Microsoft® Virtual Server 2005 の追加ゲスト・オペレーティング・システム:
  - Windows Server 2003、Enterprise、Standard、および Web Edition (サービス・パック 2)
- Microsoft Virtual Server 2005 (サービス・パック 1) の追加ゲスト・オペレーティング・システム:
  - Windows Server 2003、Enterprise、Standard、および Web Edition (サービス・パック 2)
  - Windows Server 2003、Enterprise、Standard、および Web x64 Edition (サービス・パック 2)

**xSeries サーバーおよび Intel 互換システム (64 ビット・オペレーティング・システム)**

注: IBM Director は、Intel Itanium® オペレーティング・システムに対してはレベル 1 サポートを提供しません。

- Red Hat Enterprise Linux AS、ES、および WS バージョン 3.0 (AMD64 および EM64T 用) (Update 1、2、3、4、5、および 6)
- **レベル 0 およびレベル 2 管理のみ:** Red Hat Enterprise Linux AS バージョン 3.0 (Intel Itanium 用) (Update 1、2、3、4、5、および 6)
- Red Hat Enterprise Linux AS、ES、および WS バージョン 4.0 (AMD64 および EM64T 用) (Update 1、2、3、および 4)
- **レベル 0 およびレベル 2 管理のみ:** Red Hat Enterprise Linux AS バージョン 4.0 (Intel Itanium 用) (Update 1、2、3、および 4)
- SUSE Linux Enterprise Server 9 (AMD64 および EM64T 用) (サービス・パック 1、2、および 3)
- **レベル 0 およびレベル 2 管理のみ:** SUSE Linux Enterprise Server 9 (Itanium プロセッサ・ファミリー用) (サービス・パック 1、2、および 3)
- Windows Server 2003、Datacenter、Enterprise、Standard、および Web x64 Edition (サービス・パック 1 および 2)
- **レベル 0 およびレベル 2 管理のみ:** Windows Server 2003、Datacenter、および Enterprise 64-bit Itanium Edition (サービス・パック 1 および 2)

**System i および System p サーバー**

- レベル 0 およびレベル 2 管理のみ: i5/OS バージョン 5 リリース 4

注: レベル 0 サポートには、「ディスクバリー」、「リモート・セッション」および「ソフトウェア配布」タスクの限定サブセットを含みません。

- Red Hat Enterprise Linux AS バージョン 4.0 (IBM POWER 用) (Update 3)
- SUSE Linux Enterprise Server 9 (IBM POWER 用) (サービス・パック 3)

## IBM Director での使用がサポートされる追加データベース・バージョン

- Microsoft Data Engine (MSDE) 2000 サービス・パック 4
- Microsoft SQL Server 2000 サービス・パック 4

注: サービス・パック 4 のサポートは、以前のサービス・パック 3a に対するサポートに取って代わります。MSDE 2000 または Microsoft SQL Server 2000 をサービス・パック 4 にアップグレードすることをお勧めします。

---

## 製品修正履歴

このセクションでは、IBM Director 5.10 アップデート 2 により解決された制限と問題について記載します。

## Authorized Program Analysis Reports

次の Authorized Program Analysis Reports (APAR) は、IBM Director 5.10 アップデート 2 で解決しています。

### IC48266

IBM Director サーバーが、Windows が稼働する xSeries サーバーで ServeRAID™ 8i コントローラーのインベントリ情報を収集しない。

### IC48353

IBM Director の実行中にロー・デバイス・マッピング (RDM) を使用してディスクが接続されている仮想マシンをパワーオンすると失敗する。

### IC48414

リソース・モニターのエクスポートに関するオンライン・ヘルプ手順に誤りがある。

### IC48420

複数の管理対象システムへのソフトウェア配布が失敗する。

### IC48594

IBM Director サーバーと IBM Director エージェントの間で暗号化が使用可能になっている場合に Director.Topology.Online イベントが行われない。

### IC48713

IBM Director サーバーが BladeCenter 管理モジュールへの接続をオープン状態で維持するため、その他のアプリケーション (MPCLI および UpdateXpress) がポートにアクセスできなくなる。

## BladeCenter シャーシ管理対象オブジェクト

BladeCenter シャーシ管理対象オブジェクトに影響を与える以下の制限および問題は、IBM Director 5.10 アップデート 2 で解決しています。

- Linux システムにおいて、シャーシ管理対象オブジェクトのマルチキャスト検出が正常に機能しない。

**注:** この機能は IBM Director 5.10 アップデート 1 の Windows に対しては修正されました。

- IBM Director が BladeCenter H シャーシ管理対象オブジェクトのスイッチ 5 から 10 を検出または管理しない。
- BladeCenter 構成マネージャー・タスクによって IBM Director コンソールまたは IBM Director サーバーが停止する場合がある。
- スイッチにまだ IP アドレスが指定されていない場合、およびプロファイルがスイッチの IP アドレスを変更しようとする場合に、BladeCenter 構成プロファイルのスイッチへの適用が失敗する。
- BladeCenter シャーシ管理対象オブジェクトによって IBM Director サーバーが断続的に停止する。

## 検出

管理対象オブジェクトの検出に影響を与える以下の制限および問題は、IBM Director 5.10 アップデート 2 で解決しています。

- 複数のネットワーク・インターフェース・カード (NIC) があるレベル 2 管理対象システムが、IBM Director でレベル 2 管理にプロモートできない単一のレベル 0 管理対象システムとして検出される。複数のネットワーク・インターフェース・カード (NIC) があるレベル 2 管理対象システムを手動で追加すると、管理対象システムが追加されないか、誤ってレベル 0 またはレベル 1 管理対象システムとして追加される結果となる。
- 多数のアドレスが複数のユニキャスト・アドレス範囲により指定された場合、レベル 0 管理対象システムの検出でいくつかのアドレスがスキップされる。
- レベル 0 の検出および存在を検査する要求によって、ログイン試行が失敗した後にアカウントを使用不可にする管理対象システムのセキュリティ・ポリシーが起動することがある。
- Windows Server 2003 が稼働するレベル 1 管理対象システムが IBM Director コンソールでレベル 0 管理対象システムとして表示され、インベントリまたはハードウェア・アラートを戻さない。
- Windows (Intel Itanium (64 ビット) 用) が稼働するレベル 2 管理対象システムを追加すると、System i™ 管理サーバー上で AIX® または Linux を実行する IBM Director サーバーが停止する原因となる。
- ベースボード管理コントローラー (BMC) がある管理対象システムを追加した後、BMC 用に物理プラットフォーム管理対象オブジェクト (PPMO) が作成されるはずであるが、作成されない。

## 資料およびオンライン・ヘルプ

次の資料およびヘルプに関する問題は、IBM Director 5.10 アップデート 2 で解決しています。

- リモート・セッション・ヘルプに表示されるリモート・セッション・タスクのアイコンが誤っている。
- プロファイル・ビルダー・マスク構成のヘルプ・ファイルが欠落している。
- 「イベント・フィルター・ビルダー」ウィンドウに誤ったヘルプ・ファイルが表示される。
- 「インベントリー・サービス」ウィンドウに誤ったヘルプ・メッセージが表示される。
- イベント・アクション計画ビルダーの「アクションのカスタマイズ」のヘルプにアクション・リストが正しく表示されない。
- IBM Director MPCLI 資料に、スタンドアロン・バージョンの MPCLI で使用可能なコマンドしか記載されていない。
- IBM Director MPCLI 資料で、負の値オペランド (つまり、負符号 (-) が前に付くもの) を引用符で囲む要件をユーザーに通知していない。

## ハードウェア状況

ハードウェア状況レポートに影響を与える以下の制限および問題は、IBM Director 5.10 アップデート 2 で解決しています。

- ハードウェア管理コンソール (HMC) からの電源機構障害イベントが単に「ハードウェア障害」としてリストされる。
- IBM Director のいくつかの管理対象システムでファンの状況が正常に戻らない。

## IBM Director コンソール

IBM Director コンソールに影響を与える以下の制限および問題は、IBM Director 5.10 アップデート 2 で解決しています。

- 管理対象システムでプロセス管理を使用して存在しないユーザー ID を指定してコマンドを実行した場合に、IBM Director コンソールに誤って「PMExecIdPw」エラーが表示される。
- タイムアウト値が指定されていない場合にユーザーがプロセス管理でタスクを作成して保管すると、IBM Director コンソールが停止する。
- 「コンソール・プリファレンス」ウィンドウでコンソール・テキストの色が変更されても、ラック・マネージャーのテキストの色が変更されない。
- IBM Director コンソールが IBM Director サーバーへのサインオンを完了するのに非常に長い時間がかかる。

## インベントリー

インベントリー操作に影響を与える以下の制限および問題は、IBM Director 5.10 アップデート 2 で解決しています。

- System z™ レベル 1 管理対象システムに関する一部のインベントリー・データが収集されない。
- 同時に複数システムのインベントリーが収集されると、レベル 1 管理対象システムのインベントリー収集が失敗する場合がある。
- Linux on POWER が稼働するレベル 1 管理対象システムのインベントリーを収集するときに、インベントリー・タスクの実行が非常に遅くなる。

- インベントリー・タスクで、i5/OS が稼働する管理対象システムの正しい電圧調節モジュール (VRM) が表示されない。

## その他

以下に示すその他の制限および問題は、IBM Director 5.10 アップデート 2 で解決しています。

- 「イベント・アクション・プラン」ウィザードで、「イベント・アクション・プラン」ウィザードを使用して作成されたものでないイベント・アクション・プランに対して、ユーザーによる編集が誤って許可される。
- IBM Director サーバーで、IBM Director 4.22 から IBM Director 5.10 にアップグレードした後に初期設定の問題が発生する場合がある。
- IBM TotalStorage<sup>®</sup> DS400 管理対象オブジェクトへのアクセスを試行すると、IBM Director が取り扱い不能の例外エラーを戻す。
- IBM Director が、レベル 1 System p<sup>™</sup> 管理対象サーバーで lsvpd プロセスの多数のインスタンスをオープン状態のまま残す。
- 手動で同時に多数の管理対象オブジェクトの存在を検査すると、i5/OS または Windows 管理サーバーの IBM Director サーバーが突然「メモリー不足」エラーでシャットダウンする。
- システム名が 14 文字より長い場合に、イベントによって Windows が稼働する管理対象システムのヌル・システム名が戻される。
- ドメイン・コントローラー上のレベル 0 管理対象オブジェクトへのアクセス要求は、速度が非常に遅く、最終的に成功する前に障害メッセージを戻す場合がある。
- Red Hat Linux が稼働するレベル 2 管理対象システムで 254 文字より長いユーザー・パスワードを作成すると、IBM Director エージェントが停止する。
- ServeRAID マネージャーを使用して RAID 構成を実行すると、VMware が稼働するレベル 1 管理対象システムで IBM Director コア・サービスが停止する。



---

## 第 2 章 インストールおよびアップグレードの情報

---

### 一般的なインストールに関する注意

ここでは、IBM Director バージョン 5.10 アップデート 2 のインストールおよびアップグレードについての一般情報を説明します。

- IBM Director バージョン 5.10 アップデート 2 用のすべてのアップグレード・パッケージを IBM Director Web サイトからダウンロードしてください。このアップグレードは CD-ROM あるいはその他の物理メディアで入手することはできません。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
- IBM Director のコンポーネントは、バージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードされるとバージョン番号 5.10.2 になります。

インストールについて詳しくは、「*IBM Director* インストールおよび構成ガイド」を参照してください。この資料を参照するには、IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_main.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_main.html)) にアクセスしてください。

---

### IBM Director コンポーネントのバージョン互換性

IBM Director の前のバージョンと同様に、以下の規則が IBM Director コンポーネントのバージョン互換性に適用されます。

- IBM Director サーバーおよび IBM Director コンソールのバージョンは、別のシステムにインストールされている場合でも同じでなければなりません。
- 同一システムにインストールされたコンポーネント (IBM Director コンソールおよび IBM Director エージェントなど) のバージョンは同じでなければなりません。
- IBM Director サーバーのバージョンは必ず、管理対象システムにインストールされたすべての IBM Director エージェントまたは IBM Director コア・サービスのバージョン以降でなければなりません。

以下の規則は、現実的な結果を示唆しています。

- IBM Director サーバー 5.10 アップデート 2 にアップグレードするときは、IBM Director コンソールのすべてのインスタンスも同様にアップグレードする必要があります。
- どの管理対象システムでも IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 または IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 2 にアップグレードする場合は、IBM Director サーバーおよび IBM Director コンソールのすべてのインスタンスを両方ともアップグレードする必要があります。

**注:** System z 上の IBM Director サーバーを 5.10 アップデート 2 にアップグレードできないため、System z 上の IBM Director サーバーを使用して IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 または IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 2 を管理することはできません。System z 上の

IBM Director サーバーによる管理が必要な場合は、IBM Director エージェントまたは IBM Director コア・サービスをアップグレードしないでください。

- 必ずしも IBM Director エージェントまたは IBM Director コア・サービスのすべてのインスタンスをアップグレードしなくても、IBM Director サーバー 5.10 アップデート 2 にアップグレードできます。

IBM Director 5.10 アップデート 2 の各コンポーネントと互換性のある IBM Director コンポーネントの完全なリストについては、表 1 を参照してください。

表 1. IBM Director 5.10 アップデート 2 コンポーネントと、その他のコンポーネント・バージョンとの互換性

IBM Director 5.10 アップデート 2 コンポーネント	IBM Director サーバーの互換バージョン	IBM Director コンソールの互換バージョン	IBM Director エージェントの互換バージョン	IBM Director コア・サービスの互換バージョン
IBM Director サーバー 5.10.2	N/A	5.10.2	5.10.2, 5.10.1, 5.10, 4.22, 4.21, 4.20.2, 4.20, 4.12, 4.11, 4.10.2, 4.10	5.10.2, 5.10.1, 5.10
IBM Director コンソール 5.10.2	5.10.2	N/A	5.10.2, 5.10.1, 5.10, 4.22, 4.21, 4.20.2, 4.20, 4.12, 4.11, 4.10.2, 4.10	5.10.2, 5.10.1, 5.10
IBM Director エージェント 5.10.2	5.10.2 以降	5.10.2 以降	N/A	N/A
IBM Director コア・サービス 5.10.2	5.10.2 以降	5.10.2 以降	N/A	N/A

IBM Director コンポーネントのその他のバージョン構成はサポートされていません。

## アップグレード・パッケージの入手

インストール手順を開始する前に、バージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするすべてのコンポーネントのアップグレード・パッケージを入手します。

**注:** IBM Director コンソールと IBM Director サーバーは常に同一バージョンの必要があります。片方をアップグレードするときは他方もアップグレードする必要があります。

IBM Director バージョン 5.10 アップデート 2 は、以下の CD-ROM メディアで入手できます。

- Intel および AMD ベース・ハードウェア用 IBM Director バージョン 5.10 アップデート 2
- AIX 5L™ 用 IBM Director バージョン 5.10 アップデート 2
- Linux on POWER 用 IBM Director バージョン 5.10 アップデート 2

IBM Director バージョン 5.10 アップデート 2 は、以下のセクションで説明されているようにダウンロードして入手することもできます。

**注:** Linux が稼働する管理コンソールで IBM Director コンソールおよび IBM Director エージェントのインストール済み環境と一緒にアップグレードする場合、IBM Director コンソールのインストール・パッケージをダウンロードして使用する必要があります。

## System i および xSeries サーバー用アップグレード・パッケージのダウンロード

IBM Director 5.10 アップデート 2 用アップグレード・パッケージをダウンロードするには、以下の手順に従ってください。

1. IBM Director ダウンロード Web サイトの [www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems\\_management/xseries\\_sm/dwnl.html](http://www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems_management/xseries_sm/dwnl.html) にナビゲートします。
2. リストから **xSeries** および **BladeCenter** 用の **IBM Director 5.10** を選択し、要求情報を入力して、**Submit** をクリックします。
3. 現行バージョンの見出しの下の **IBM Director 5.10 アップデート 2** をクリックします。
4. ダウンロードするパッケージのリンクをクリックします。

表 2. xSeries 用 IBM Director 5.10 および BladeCenter ダウンロード・サイトで利用可能な IBM Director アップグレード・パッケージ

コンポーネント	パッケージ・ファイル名
IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 for i5/OS	dir5.10.2_agent_i5OS.zip
IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 for Linux for xSeries	dir5.10.2_agent_linux.tar
IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 for Linux (Intel Itanium (64 ビット) 用)	dir5.10.2_agent_linux64.tar
IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 for NetWare	dir5.10.2_agent_netware.zip
Windows (32 bit) 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2	dir5.10.2_agent_windows.zip
Windows for Intel Itanium (64 bit) 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2	dir5.10.2_agent_windows64.zip
IBM Director コンソール 5.10 アップデート 2 for Linux for xSeries	dir5.10.2_console_linux.tar
Windows 用 IBM Director コンソール 5.10 アップデート 2	dir5.10.2_console_patch_windows.zip
Linux for xSeries 用 IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 2	dir5.10.2_coreservices_linux.tar
Windows 用 IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 2	dir5.10.2_coreservices_windows.zip
IBM Director サーバー 5.10 アップデート 2 for i5/OS	dir5.10.2_server_patch_i5os.zip

表 2. xSeries 用 IBM Director 5.10 および BladeCenter ダウンロード・サイトで利用可能な IBM Director アップグレード・パッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ・ファイル名
IBM Director サーバー 5.10 アップデート 2 for Linux for xSeries	dir5.10.2_server_linux.tar
Windows 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 2	dir5.10.2_server_patch_windows.zip

## System p サーバー用アップグレード・パッケージのダウンロード

IBM Director 5.10 アップデート 2 用アップグレード・パッケージをダウンロードするには、以下の手順に従ってください。

1. IBM eServer™ - IBM Virtualization Engine™ - IBM Director の Web サイト ([www.ibm.com/servers/eserver/about/virtualization/enterprise/director.html](http://www.ibm.com/servers/eserver/about/virtualization/enterprise/director.html)) にナビゲートします。
2. ページの右サイドにある **IBM Director** のダウンロードのリンクをクリックします。
3. ダウンロード・サイトにサインインします。まだ汎用 IBM ユーザー ID を作成していない場合は、それを作成してからサインインしてください。
4. 必要なプラットフォームのタイプを選択し、**続く**をクリックします。
5. 要求情報を入力し、ご使用条件を読んでから、**同意する**をクリックします。
6. 必要とするパッケージにナビゲートし、**今すぐダウンロード**をクリックします。

表 3. IBM Director System p ダウンロード・サイトで使用可能な IBM Director アップグレード・パッケージ

コンポーネント	パッケージ・ファイル名
IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 for AIX	Dir5.10.2_AIX.tar Dir5.10.2_AIX.iso
Linux on POWER 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2	Dir5.10.2_LinuxonPower.tar Dir5.10.2_LinuxonPower.iso
IBM Director コンソール 5.10 アップデート 2 for AIX	Dir5.10.2_AIX.tar Dir5.10.2_AIX.iso
Linux on POWER 用 IBM Director コンソール 5.10 アップデート 2	Dir5.10.2_LinuxonPower.tar Dir5.10.2_LinuxonPower.iso
Linux on POWER 用 IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 2	Dir5.10.2_LinuxonPower.tar Dir5.10.2_LinuxonPower.iso
AIX 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 2	Dir5.10.2_AIX.tar Dir5.10.2_AIX.iso
Linux on POWER 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 2	Dir5.10.2_LinuxonPower.tar Dir5.10.2_LinuxonPower.iso

## IBM Director サーバーのアップグレード

このセクションでは、IBM Director サーバーをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードする手順について説明します。

## AIX 上の IBM Director サーバーのアップグレード

AIX 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 2 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director サーバー 5.10 または IBM Director サーバー 5.10.1 インストール済み環境を IBM Director サーバー 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

AIX 上の IBM Director サーバーをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. AIX 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Director サーバーを停止します。コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。  

```
/opt/ibm/director/bin/twgstop
```
3. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_ibm\\_director\\_server.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_ibm_director_server.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、Dir5.10.2\_AIX.tar または Dir5.10.2\_AIX.iso パッケージをインストールします。
4. IBM Director サーバーを再始動します。コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。  

```
/opt/ibm/director/bin/twgstart
```

IBM Director サーバーをアップグレードした後、他のシステムの IBM Director コンソールのすべてのインスタンスを同じバージョンにアップグレードする必要があります。詳しくは、19 ページの『IBM Director コンソールのアップグレード』を参照してください。

## i5/OS 上の IBM Director サーバーのアップグレード

i5/OS 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 2 パッケージは、既存の IBM Director サーバー 5.10 または IBM Director サーバー 5.10.1 インストール済み環境を IBM Director サーバー 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードします。

### RSTLICPGM コマンドを使用する i5/OS 上の IBM Director サーバーのアップグレード

IBM Director を Virtualization Engine 環境で使用しない場合は、Restore Licensed Program (RSTLICPGM) コマンドを使用して IBM Director サーバーをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードできます。i5/OS 上の IBM Director サーバーをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. dir5.10.2\_server\_patch\_i5os.zip ファイルの内容をローカル・ディレクトリーに解凍します。このアーカイブ・ファイルには SAVDR100MM.sav ファイルが含まれています。
2. i5/OS システムで次のコマンドを入力して **Enter** を押し、SAVDR100MM.sav ファイルの保管ファイルを作成します。

```
CRSAVF FILE(QGPL/SAVDR100MM)
```

3. dir5.10.2\_server\_patch\_i5os.zip ファイルの内容を解凍したディレクトリーから、i5/OS システムへの FTP セッションを開始し、以下のコマンドを入力して、それぞれの後に **Enter** を押します。

```
binary  
put FILES/SAVDR100MM.sav /qsys.lib/qgpl.lib/SAVDR100MM.file
```

4. コマンド・プロンプトから次のコマンドを入力して **Enter** を押し、IBM Director サーバーを停止します。

```
QSH CMD('/qibm/userdata/director/bin/twgend')
```

5. コマンド・プロンプトから次のコマンドを入力して **Enter** を押し、IBM Director サーバーが停止したことを確認します。

```
QSH CMD('/qibm/userdata/director/bin/twgstat')
```

6. i5/OS システムで次のコマンドを入力して **Enter** を押し、アップグレードをインストールします。

```
RSTLICPGM LICPGM(5722DR1) DEV(*SAVF) SAVF(QGPL/SAVDR100MM)
```

7. コマンド・プロンプトから次のコマンドを入力して **Enter** を押し、IBM Director サーバーを再始動します。

```
QSH CMD('/qibm/userdata/director/bin/twgstart')
```

8. コマンド・プロンプトから次のコマンドを入力して **Enter** を押し、IBM Director サーバーが再始動したことを確認します。

```
QSH CMD('/qibm/userdata/director/bin/twgstat')
```

9. SAVDR100MM.sav ファイルを削除するには、次のコマンドを入力して **Enter** を押します。

```
DLTF FILE(QGPL/SAVDR100MM)
```

IBM Director サーバーをアップグレードした後、他のシステムの IBM Director コンソールのすべてのインスタンスを同じバージョンにアップグレードする必要があります。詳しくは、19 ページの『IBM Director コンソールのアップグレード』を参照してください。

## Virtualization Engine アップデート・インストーラーを使用する i5/OS 上の IBM Director サーバーのアップグレード

IBM Director を Virtualization Engine 環境で使用している場合は、Virtualization Engine アップデート・インストーラーを使用して IBM Director サーバーをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードできます。i5/OS 上の IBM Director サーバーをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. i5/OS 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 2 アップグレード・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. まだ作成されていない場合は、管理サーバーに /QIBM/UserData/VE2/Updates ディレクトリーを作成し、アップグレード・パッケージを /QIBM/UserData/VE2/Updates ディレクトリーに移動します。

3. Virtualization Engine アップデート・インストーラーを入手し、管理サーバーにインストールします。手順については、  
[publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/index.jsp?topic=/veicinfo/eicarfixparent.htm](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/index.jsp?topic=/veicinfo/eicarfixparent.htm) を参照してください。
4. Virtualization Engine アップデート・インストーラーのインストール後、IBM Director サーバーをアップグレードするために次のコマンドを入力してください。  

```
java -jar /QOpenSys/QIBM/ProdData/ci/gmi/lib/gmi.jar
      -discriminant /QIBM/ProdData/VE2
      -mdvFile /QIBM/UserData/VE2/Updates/dir5.10.2_server_patch_i5os.zip
      -silent
```
5. コマンド・プロンプトから次のコマンドを入力して **Enter** を押し、IBM Director サーバーを再始動します。  

```
QSH CMD('/qibm/userdata/director/bin/twgstart')
```
6. コマンド・プロンプトから次のコマンドを入力して **Enter** を押し、IBM Director サーバーが再始動したことを確認します。  

```
QSH CMD('/qibm/userdata/director/bin/twgstat')
```

IBM Director サーバーをアップグレードした後、他のシステムの IBM Director コンソールのすべてのインスタンスを同じバージョンにアップグレードする必要があります。詳しくは、19 ページの『IBM Director コンソールのアップグレード』を参照してください。

## Linux 上の IBM Director サーバーのアップグレード (xSeries)

Linux for xSeries 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 2 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director サーバーのバージョン 4 (すべてのリリース)、バージョン 5.10、またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director サーバー 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

xSeries 上の Linux の IBM Director サーバーをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. xSeries 上の Linux 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Director サーバーを停止します。コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。  

```
/opt/ibm/director/bin/twgstop
```
3. IBM Systems Software Information Center  
([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_ibm\\_director\\_server.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0_t_installing_ibm_director_server.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、  

```
dir5.10.2_server_linux.tar
```

 パッケージをインストールします。
4. IBM Director サーバーを再始動します。コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。  

```
/opt/ibm/director/bin/twgstart
```

IBM Director サーバーのバージョン 5.10 アップデート 2 をインストールすると、IBM Director コンソールおよび IBM Director エージェントが管理サーバーに自動的にインストールされます。IBM Director サーバーをアップグレードした後、他のシステムの IBM Director コンソールのすべてのインスタンスを同じバージョンにアップグレードする必要があります。詳しくは、19 ページの『IBM Director コンソールのアップグレード』を参照してください。

## Linux 上の IBM Director サーバーのアップグレード (System p5, pSeries)

Linux on POWER 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 2 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director サーバー 5.10 またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director サーバー 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

System p5、pSeries 上の Linux の IBM Director サーバーをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. System p5、pSeries 上の Linux 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Director サーバーを停止します。コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。  

```
/opt/ibm/director/bin/twgstop
```
3. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_ibm\\_director\\_server.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_ibm_director_server.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、Dir5.10.2\_LinuxonPower.tar または Dir5.10.2\_LinuxonPower.iso パッケージをインストールします。
4. IBM Director サーバーを再始動します。コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。  

```
/opt/ibm/director/bin/twgstart
```

IBM Director サーバーをアップグレードした後、他のシステムの IBM Director コンソールのすべてのインスタンスを同じバージョンにアップグレードする必要があります。詳しくは、19 ページの『IBM Director コンソールのアップグレード』を参照してください。

## Windows 上の IBM Director サーバーのアップグレード

Windows 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 2 パッケージは、既存の IBM Director サーバー 5.10 またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director サーバー 5.10.2 にアップグレードします。

Windows 上の IBM Director サーバーをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. Windows 用 IBM Director サーバー 5.10 アップデート 2 アップグレード・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。

2. dir5.10.2\_server\_patch\_windows.zip パッケージのファイルを解凍します。
3. アップグレード・パッケージから解凍したアップグレード・ファイルの 1 つを実行します。このパッケージには、.exe と .msp ファイルの両方が含まれています。Windows のインストーラー・テクノロジーに習熟した上級者は .msp ファイルを使用し、他のユーザーは .exe ファイルを使用します。

IBM Director サーバーをアップグレードした後、他のシステムの IBM Director コンソールのすべてのインスタンスを同じバージョンにアップグレードする必要があります。詳しくは、『IBM Director コンソールのアップグレード』を参照してください。

---

## IBM Director コンソールのアップグレード

このセクションでは IBM Director コンソールをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードする手順について説明します。

### AIX 上の IBM Director コンソールのアップグレード

AIX 用 IBM Director コンソール 5.10 アップデート 2 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director コンソール 5.10 またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director コンソール 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

AIX 上の IBM Director コンソールをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. AIX 用 IBM Director コンソール 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_ibm\\_director\\_console.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_ibm_director_console.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、Dir5.10.2\_AIX.tar または Dir5.10.2\_AIX.iso パッケージをインストールします。

### Linux 上の IBM Director コンソールのアップグレード (xSeries)

Linux for xSeries 用 IBM Director コンソール 5.10 アップデート 2 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director コンソール・バージョン 4 (すべてのリリース)、バージョン 5.10、またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director コンソール 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

**注:** Linux が稼働する管理コンソールで IBM Director コンソールおよび IBM Director エージェントのインストール済み環境を一緒にアップグレードする場合、IBM Director コンソールのインストール・パッケージをダウンロードして使用する必要があります。

xSeries 上の Linux の IBM Director コンソールをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. xSeries 上の Linux 用 IBM Director コンソール 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_ibm\\_director\\_console.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_ibm_director_console.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、`dir5.10.2_console_linux.tar` パッケージをインストールします。

IBM Director エージェントが管理コンソールにインストールされていると、このパッケージは IBM Director エージェントのインストール済み環境もバージョン 5.10.2 にアップグレードします。IBM Director エージェントがインストールされていない場合、このパッケージは IBM Director コンソールをインストールあるいはアップグレードするだけです。

## Linux 上の IBM Director コンソールのアップグレード (System p5, pSeries)

Linux on POWER 用 IBM Director コンソール 5.10 アップデート 2 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director コンソール 5.10 またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director コンソール 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

**注:** Linux が稼働する管理コンソールで IBM Director コンソールおよび IBM Director エージェントのインストール済み環境を一緒にアップグレードする場合、IBM Director コンソールのインストール・パッケージをダウンロードして使用する必要があります。

System p5、pSeries 上の Linux の IBM Director コンソールをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. System p5、pSeries 上の Linux 用 IBM Director コンソール 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_ibm\\_director\\_console.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_ibm_director_console.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、`Dir5.10.2_LinuxonPower.tar` または `Dir5.10.2_LinuxonPower.iso` パッケージをインストールします。

## Windows 上の IBM Director コンソールのアップグレード

Windows 用 IBM Director コンソール 5.10 アップデート 2 パッケージは、既存の IBM Director コンソール 5.10 またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director コンソール 5.10.2 にアップグレードします。

Windows 上の IBM Director コンソールをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. Windows 用 IBM Director コンソール 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. dir5.10.2\_console\_patch\_windows.zip パッケージのファイルを解凍します。
3. アップグレード・パッケージから解凍したアップグレード・ファイルの 1 つを実行します。このパッケージには、.exe と .msp ファイルの両方が含まれています。Windows のインストーラー・テクノロジーに習熟した上級者は .msp ファイルを使用し、他のユーザーは .exe ファイルを使用します。

---

## IBM Director エージェントのアップグレード

このセクションでは IBM Director エージェントをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードする手順について説明します。

### AIX 上の IBM Director エージェントのアップグレード

AIX 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director エージェント バージョン 4.20、バージョン 5.10、またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director エージェント 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

AIX 上の IBM Director エージェントをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. AIX 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Director エージェントを停止します。コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。  

```
/opt/ibm/director/bin/twgstop
```
3. IBM Systems Software Information Center  
([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricino/fqm0\\_t\\_installingibm\\_director\\_agent.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricino/fqm0_t_installingibm_director_agent.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、Dir5.10.2\_AIX.tar または Dir5.10.2\_AIX.iso パッケージをインストールします。
4. IBM Director エージェントを再始動します。コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。  

```
/opt/ibm/director/bin/twgstart
```

### i5/OS 上の IBM Director エージェントのアップグレード

i5/OS 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director エージェント バージョン 4 (すべてのリリース)、バージョン 5.10、またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director エージェント 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

i5/OS 上の IBM Director エージェントをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. i5/OS 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. ソフトウェア配布を使用して dir5.10.2\_agent\_i5OS.zip パッケージをインストールします。IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_upgrading\\_ibm\\_director\\_agent\\_using\\_the\\_software\\_distribution\\_task.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_upgrading_ibm_director_agent_using_the_software_distribution_task.html)) にある手順を参照します。手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えます。

**注:** IBM Director エージェントを i5/OS 管理対象システムに Restore Licensed Program (RSTLICPGM) コマンドを使用してインストールした場合は、IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_ibm\\_director\\_agent\\_using\\_rstlicpgm.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_ibm_director_agent_using_rstlicpgm.html)) にあるインストール手順を参照し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えます。

## Linux 上の IBM Director エージェントのアップグレード (xSeries)

Linux for xSeries 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director エージェント バージョン 4 (すべてのリリース)、バージョン 5.10、またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director エージェント 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

**注:** IBM Director エージェントが管理コンソールにインストールされている場合は、あらかじめ IBM Director エージェントをアップグレードする必要はなく、ダウンロードした IBM Director コンソールのアップグレード・パッケージを適用すると、IBM Director エージェントのインストール済み環境もバージョン 5.10.2 にアップグレードされます。

xSeries 上の Linux の IBM Director エージェントをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. xSeries 上の Linux 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installingIbm\\_director\\_agent.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installingIbm_director_agent.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、dir5.10.2\_agent\_linux.tar パッケージをインストールします。

## 上の IBM Director エージェントのアップグレード (System p5, pSeries)

Linux on POWER 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director エージェント バージョン

4.20、バージョン 4.21、バージョン 4.22、バージョン 5.10、またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director エージェント 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

**注:** IBM Director エージェントが管理コンソールにインストールされている場合は、あらためて IBM Director エージェントをアップグレードする必要はなく、ダウンロードした IBM Director コンソールのアップグレード・パッケージを適用すると、IBM Director エージェントのインストール済み環境もバージョン 5.10.2 にアップグレードされます。

System p5、pSeries 上の Linux の IBM Director エージェントをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. System p5、pSeries 上の Linux 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Director エージェントを停止します。コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。  

```
/opt/ibm/director/bin/twgstop
```
3. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installinglibm\\_director\\_agent.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installinglibm_director_agent.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、Dir5.10.2\_LinuxonPower.tar または Dir5.10.2\_LinuxonPower.iso パッケージをインストールします。
4. IBM Director エージェントを再始動します。コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。  

```
/opt/ibm/director/bin/twgstart
```

## Linux (64 bit) 上の IBM Director エージェントのアップグレード (Intel Itanium システム)

Linux (Intel Itanium (64 ビット) 用) 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director エージェント バージョン 4 (すべてのリリース)、バージョン 5.10、またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director エージェント 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

**注:** このパッケージは Itanium 2 サポート専用です。

Intel Itanium システム上の Linux (64 bit) の IBM Director エージェントをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. Intel Itanium システム上の Linux (64 bit) 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installinglibm\\_director\\_agent.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installinglibm_director_agent.html)) にあるインストール手順を使用し、手順

で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、  
dir5.10.2\_agent\_linux64.tar パッケージをインストールします。

## NetWare 上の IBM Director エージェントのアップグレード

NetWare 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director エージェント バージョン 5.10 またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director エージェント 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

NetWare 上の IBM Director エージェントをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. NetWare 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installinglibm\\_director\\_agent.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installinglibm_director_agent.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、  
dir5.10.2\_agent\_netware.zip パッケージをインストールします。

## Windows (32 bit) 上の IBM Director エージェントのアップグレード

Windows (32 ビット) 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director エージェント バージョン 4 (すべてのリリース)、バージョン 5.10、またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director エージェント 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

Windows (32 bit) 上の IBM Director エージェントをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. Windows (32 bit) 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installinglibm\\_director\\_agent.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installinglibm_director_agent.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、  
dir5.10.2\_agent\_windows.zip パッケージをインストールします。

## Windows (64 bit) 上の IBM Director エージェントのアップグレード (Intel Itanium システム)

Windows (Intel Itanium (64 ビット) 用) 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director エージェント バージョン 4 (すべてのリリース)、バージョン 5.10、またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director エージェント 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

**注:** このパッケージは Itanium 2 サポート専用です。

Intel Itanium システム上の Windows (64 bit) の IBM Director エージェントをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. Intel Itanium システム上の Windows (64 bit) 用 IBM Director エージェント 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installinglibm\\_director\\_agent.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installinglibm_director_agent.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、`dir5.10.2_agent_windows64.zip` パッケージをインストールします。

---

## IBM Director コア・サービスのアップグレード

このセクションでは IBM Director コア・サービスをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードする手順について説明します。

### Linux 上の IBM Director コア・サービスのアップグレード (xSeries)

Linux for xSeries 用 IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 2 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director コア・サービスバージョン 5.10 またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director コア・サービス 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

xSeries 上の Linux の IBM Director コア・サービスをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. xSeries 上の Linux 用 IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_core\\_services.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_core_services.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、`dir5.10.2_coreservices_linux.tar` パッケージをインストールします。

### Linux 上の IBM Director コア・サービスのアップグレード (System p5, pSeries)

Linux on POWER 用 IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 2 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director コア・サービス・バージョン 5.10 またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director コア・サービス 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

System p5、pSeries 上の Linux の IBM Director コア・サービスをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. System p5、pSeries 上の Linux 用 IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_core\\_services.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_core_services.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、Dir5.10.2\_LinuxonPower.tar または Dir5.10.2\_LinuxonPower.iso パッケージをインストールします。

## Windows 上の IBM Director コア・サービスのアップグレード

Windows 用 IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 2 パッケージは、完全な新規インストールにも、既存の IBM Director コア・サービス・バージョン 5.10 またはバージョン 5.10.1 のインストール済み環境を IBM Director コア・サービス 5.10.2 にユーザー構成データを確保しつつアップグレードする場合にも使用できます。

Windows 上の IBM Director コア・サービスをバージョン 5.10 アップデート 2 にアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. Windows 用 IBM Director コア・サービス 5.10 アップデート 2 インストール・パッケージを入手します。詳しくは、12 ページの『アップグレード・パッケージの入手』を参照してください。
2. IBM Systems Software Information Center ([publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_t\\_installing\\_core\\_services.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_t_installing_core_services.html)) にあるインストール手順を使用し、手順で指示されたファイル名を新規パッケージのファイル名に置き換えて、dir5.10.2\_coreservices\_windows.zip パッケージをインストールします。

---

## 第 3 章 既知の制限、問題、および予備手段

ここでは、IBM Director 5.10 アップデート 2 を使用する場合の既知の制限、問題、および予備手段について説明します。

---

### 制限

IBM Director 5.10 アップデート 2 には、以下の制限があります。

#### **ベースボード管理コントローラーを使用するインバンド管理操作は、SUSE LINUX Enterprise Server 9 (Service Pack 2 または 3) あるいは Red Hat Enterprise Linux AS、バージョン 4、Service Pack 3 が稼働する一部の IBM eServer サーバーで使用できない。**

ハードウェア・アラートなどの特定の管理機能は、IBM Director エージェントと IBM Director サーバーの間のインバンド通信に依存します。これらの機能は、SUSE LINUX Enterprise Server 9、Service Pack 2 (32-bit edition)、SUSE LINUX Enterprise Server 9、Service Pack 3 (32-bit および 64-bit edition)、あるいは Red Hat Enterprise Linux AS、バージョン 4、Service Pack 3 (32-bit および 64-bit edition) が稼働する IBM eServer 325、IBM eServer 326、および IBM eServer 326m サーバーでは使用できません。

この制限に対応するために、将来、ベースボード管理コントローラー (BMC) 用の新しいドライバーが使用可能になる可能性があります。

[www.ibm.com/servers/eserver/support/xseries/index.html](http://www.ibm.com/servers/eserver/support/xseries/index.html) で更新情報を確認してください。

#### **イベント・アクション計画ビルダーで、イベント・テキストを入力してイベントをフィルタリングすることが許可されない。**

イベント・アクション計画ビルダーを使用してフィルターを作成する場合に、「イベント・テキスト」ページでテキストの入力が許可されません。そのため、イベント・テキストをフィルター基準として使用するフィルターを作成できません。

#### **不良ストライプ・エラーによってハードウェア・イベント (アラート) が生成されない。**

不良ストライプ・エラーが報告されても、ハードウェア・イベント (アラート) が生成されません。

レベル 2 管理対象システムの場合、不良ストライプ・エラーによってストレージ・イベントが生成され、IBM Director イベント・ログに記録されます。不良ストライプ・エラーのイベント・アクション・プランを実行するには、「ストレージ」>「ServeRAID コントローラー」>「状態」>「不良ストライプ・イベント」でイベント・アクション・プランが構成されている必要があります。

レベル 1 管理対象システムの場合、不良ストライプ・エラーが IBM Director に報告されません。不良ストライプ・エラーの報告が必要である場合、管理対象システ

ムに IBM Director エージェントをインストールしてください。または、Windows が稼働する管理対象システムでは、Windows イベント ビューアを使用して不良ストライプ・エラーを手動で確認することができます。

## 各管理対象システムのイベント・アクション・プランには、複数のイベント・アクション・プランが存在している場合でも 1 つのリソース・モニターしきい値しか許されません。

その値が現行プランにおいて変更された場合は、この制限により予期しない動作や他のイベント・アクション・プランのリソース・モニターしきい値に不要な変更が発生します。

## IC46865: (Windows システムの場合のみ) カテゴリーにカスタム・パッケージを入れてカスタム・パッケージ・エディターでリブート・オプションを使用すると、ソフトウェア配布ジョブが失敗する場合があります。

「ソフトウェア配布」タスクを使用しているときに、カテゴリーの一部にする Windows 用のカスタム・パッケージを作成する場合、カスタム・パッケージ・エディターの「コンピューターの再始動」オプションを使用しないでください。このオプションを使用すると、ソフトウェア配布ジョブが失敗します。その代わりに、カテゴリー・エディターのリブート・オプションを使用してください。

## インベントリ照会ブラウザで IBM Director エージェントが IBM Director コア・サービスとして表示される。

レベル 2: IBM Director エージェントがインストールされていると、インベントリ照会ブラウザに IBM Director コア・サービスが表示されます。

## 拡張管理モジュールが取り付けられた BladeCenter 格納装置に対する MPCLI setsmnetwork コマンドが失敗する。

たとえば、次のコマンドを発行しても、要求された変更は行われません。

```
setsmnetwork -ipaddress 1,172.16.13.65
```

このコマンドは、次のようなエラー・メッセージを戻します。

```
FAILURE: setsmnetwork -ipaddress 1,172.16.13.65 failed
```

## IBM Director コンソールから管理モジュール Web インターフェースを開始して 3 分以内に管理モジュール Web インターフェースのリモート制御タスクを開始する必要がある。

IBM Director コンソールから管理モジュール Web インターフェースを開始する場合、リモート制御タスクは、管理モジュール Web インターフェースの開始から 3 分以内に開始されないと失敗します。このタスクは、別のアプリケーション (VNC など) が 1044、1045、2000、または 5900 のいずれか 1 つのポートを使用している場合も失敗します。

リモート制御タスクでは、ポート 1044、1045、2000、および 5900 の排他使用が必要です。IBM Director は、管理モジュール Web インターフェースの開始時にこれ

らのポートの予約を試行します。リモート制御タスクが 3 分以内に開始されない場合、IBM Director はこれらのポートを無限に予約しないようにポートを閉じます。別のアプリケーションが以前にこれらのポートのいずれかを予約している場合、またはポートが閉じた後にリモート制御タスクを開始した場合、リモート制御タスクは失敗します。

この制限により影響を受けるのは、IBM Director コンソールからの管理モジュール Web インターフェースの開始のみです。スタンドアロン Web インターフェース・ツールは影響を受けません。

## **IBM Director コア・サービスがアンインストールされた後に slpd および Linux を実行する管理対象システムが誤ってレベル 1 管理対象システムとして検出される。**

IBM Director コア・サービスのアンインストール時に、SLP デーモン (slpd) を使用する管理対象システムは登録抹消されません。これらの管理対象システムには、slpd がデフォルト構成で実行される SUSE Linux Enterprise Server が稼働する多くのサーバーが含まれます。

SLP 登録の有効期限が切れるまで、slpd を使用する管理対象システムは誤ってレベル 1 管理対象システムとして検出されます。通常、これは IBM Director コア・サービスのアンインストールから約 18 時間後に生じます。

---

## **問題**

IBM Director 5.10 アップデート 2 には、以下の既知の問題があります。

### **ハイパー・スレッディングが使用可能にされているとき、CPU が 1 つしか存在しない場合でも、「リソース・モニター」タスクは 2 つの CPU モニター・リソースを表示する。**

ハイパー・スレッディング機能付きの一部の Windows 管理対象システムにおいて、管理対象システムで「リソース・モニター」タスクを実行し、CPU モニター・リソースを表示すると、システムには実際に 1 つのマイクロプロセッサしか存在しない場合でも、2 つのマイクロプロセッサ (または CPU) のリソース属性が表示されます。この問題は、マイクロプロセッサに対してハイパー・スレッディングが使用可能にされている場合に発生します。「リソース・モニター」タスクはオペレーティング・システムからデータを取り出し、オペレーティング・システムは 1 つのハイパー・スレッディング・マイクロプロセッサを 2 つの論理マイクロプロセッサとして解釈します。

### **管理対象システムの 1 つのハードウェア・コンポーネントにシリアル番号が定義されていない AIX 管理対象システムで特定タスクを実行すると、cimserver が失敗する。**

まれに 1 つのハードウェア・コンポーネントのシリアル番号が定義されていない場合、管理対象システムのインベントリ情報を要求する IBM Director タスクが原因で cimserver が失敗します。

ご使用のシステムが影響を受けるかどうかを確認するためにテストするには、以下のステップを実行してください。

1. コマンド・プロンプトで `lsvpd` と入力し、**Enter** を押します。
2. コマンド出力で、リストされる最初のコンポーネントのシリアル番号が戻されているかどうかを確認します。個々のコンポーネントは、\*FC の接頭部が付いた行で区切られています。

最初に表示される \*FC で始まる 2 行の間に \*SN で始まる行とそのデータが表示されない場合、ご使用のシステムは影響を受ける可能性があります。表 4 の例を参照してください。

表 4. `lsvpd` 出力の例

最初のコンポーネントに対してシリアル番号のある出力リスト (ハードウェアは影響を受けない)	最初のコンポーネントに対してシリアル番号のない出力リスト (ハードウェアは影響を受ける可能性がある)
<pre>*VC 5.0 *TM IBM,7044-170 *SE IBM,01106878C *PI 0006878C *OS AIX 5.3.0.0 *FC ???????? *DS Processor Card *YL P1-C1 *PN 09P1493 *EC H10138 *SN L081277080 *FN 09P0272 *MN 1980 ...</pre>	<pre>*VC 5.0 *TM IBM,8844-3BZ *SE IBM,0223A0178 *PI 00CA0178 *OS AIX 5.3.0.0 *FC ???????? *DS System VPD *YL U8844.3BZ.23A0178 *RT VSYS *FG XXSV *SE 23A0178 *TM 8844-3BZ *MN IBM *MU 66502D165C5511DA9D86E5FC81D29EA7 *ET 11 *VK RS6K *FC ???????? *DS GPUL Blade Planar *YL U8844.3BZ.23A0178-P1 ...</pre>

ご使用のハードウェアがこの問題の影響を受ける場合、以下のステップを実行して、使用可能な緊急修正パッケージを入手してインストールしてください。

1. <https://www14.software.ibm.com/webapp/iwm/web/reg/pick.do?source=dmp> にアクセスして、**IBM Pegasus CIM Server and Providers for AIX** をクリックします。
2. **Efix for IBM OS Providers 1.2.5.1** (Efix\_542314.tar) をダウンロードして、Web サイトおよび tar ファイルで参照できる `Pegasus2.5.0.1_OSPROviders1.2.5.1_AIX.README.html` ファイルのインストール手順に従います。

---

## 予備手段

このセクションは、IBM Director 5.10 アップデート 2 の使用時に発生する可能性があるいくつかの問題に対応しています。ここに記載されていないその他の問題に関するトラブルシューティング情報については、IBM Director インフォメーション・センター ([http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_r\\_tbs\\_solving\\_problems.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_r_tbs_solving_problems.html)) のトラブルシューティング・セクションを参照してください。

## OpenWBEM の実行中に IBM Director サーバー、IBM Director エージェント、または IBM Director コア・サービスのインストールが失敗する。

この問題は、IBM Director サーバーに影響します。この問題は、SUSE Linux Enterprise Server 9、SUSE Linux Enterprise Server 10、あるいはポート 5988 および 5989 を使用するすべてのアプリケーションまたは CIMOM が稼働するサーバーで発生します。

**注:** この問題は特に OpenWBEM で確認されていますが、ポート 5988 および 5989 を使用するすべての CIMOM またはアプリケーションが原因で、ここに記載する問題が生じる可能性があります。この問題が、OpenWBEM とは別のアプリケーションとのポート競合により生じる場合は、それぞれに応じた手順を変更し競合するアプリケーションを停止して、これらのポートを IBM Director CIMOM で使用できるようにしてください。

### 問題

IBM Director サーバー、IBM Director エージェント、または IBM Director コア・サービスのインストール済み環境が以下のメッセージを表示して停止します。

```
Starting Pegasus CIMOM
```

以下のステップを実行して、発生した問題がここで説明されているものであるかどうかを確認してください。

1. Pegasus CIMOM が実行されていないことを確認してください。Linux コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。
2. コマンドラインから Pegasus CIMOM の再始動を試行します。Linux コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。

```
/etc/init.d/dacimom start
```

最終的に次のメッセージが表示されます。

```
PGS17000: THE CIMSERVER COMMAND TIMED OUT WAITING FOR THE CIM SERVER TO START.
```

CIMOM が実行されている場合、または正常に開始できる場合は、ここで説明されている問題はご使用の状態に適用されません。

## 調査

Pegasus CIMOM を開始できない場合、インストールは失敗しています。失敗した原因の 1 つとして、インストール時における OpenWBEM CIMOM とのポート競合が挙げられます。以下のステップを実行して、IBM Director サービスをインストールし開始してください。

1. OpenWBEM CIMOM が実行されているかどうかを判別します。Linux コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。

```
/etc/init.d/owcimomd status
```

サービスが実行中である場合、その事実を示すメッセージが表示されます。

**注:** あるいは、owcimomd プロセスを調べることもできます。Linux コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。

```
ps -ef | grep owcimomd
```

2. OpenWBEM CIMOM が実行されている場合は、停止してください。Linux コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、**Enter** を押します。

```
/etc/init.d/owcimomd stop
```

OpenWBEM CIMOM デーモンが停止したことを確認するメッセージが表示されます。

3. 将来においてシステム再始動の後に起こる可能性があるポート競合の発生を防止するには、OpenWBEM を使用不可にします。Linux コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力し、各コマンドの後に **Enter** を押します。

```
/etc/init.d/owcimomd stop  
chkconfig owcimomd off
```

4. インストールを試行した IBM Director コンポーネント (IBM Director サーバー、IBM Director エージェント、または IBM Director コア・サービス) をアンインストールして、再インストールします。

## 特定のハードウェア・プラットフォームで VMware ESX コンソール・バージョン 2.5.2 が稼働する管理対象システムのサーバー構成マネージャーおよび管理プロセッサのコマンドライン・インターフェースが失敗する。

管理対象システムにベースボード管理コントローラー (BMC) およびリモート管理アダプター II の両方が取り付けられていると (たとえば、xSeries 366 および xSeries 460 などの xSeries サーバー)、管理対象システムが VMware ESX コンソール・バージョン 2.5.2 を実行する場合、IBM Director はシステム管理に BMC しか使用できません。VMware ESX コンソール・バージョン 2.5.2 が USB (ユニバーサル・シリアル・バス) プロトコルをサポートしないためです。BMC は、IBM Director コンソールでは物理プラットフォームとして表されます。すべての物理プラットフォームの検出が実行され、リモート管理アダプター II アダプターがネットワークに接続されている場合、管理対象物理プラットフォームは BMC からリモート管理アダプター II に変更されます。これにより、サーバー構成マネージャーおよび管理プロセッサのコマンドライン・インターフェースが失敗します。

この問題を回避するために、BMC とリモート管理アダプター II の両方が取り付けられた環境で VMware ESX コンソール・バージョン 2.5.2 を実行している場合は、すべての物理プラットフォームの検出を実行しないでください。

この問題が発生した場合は、以下のステップを実行して問題を修正します。

1. IBM Director コンソールから、リモート管理アダプター II 物理プラットフォーム管理対象オブジェクトを削除します。物理プラットフォーム管理対象オブジェクトを右クリックして、「削除」をクリックします。
2. 管理対象システムで IBM Director エージェントを停止し、再始動します。/opt/IBM/director/bin/twgstop と入力し、**Enter** を押します。IBM Director エージェントが停止したら、/opt/IBM/director/bin/twgstart と入力して **Enter** を押し、IBM Director エージェントを再始動します。BMC 物理プラットフォーム管理対象オブジェクトが再度 IBM Director コンソールで作成されます。

## fwupdate コマンドが拡張管理モジュールのファームウェアを更新しない。

拡張管理モジュールのファームウェア更新ファイルの形式は変更されています。CNETCMUS.pkt ファイルは真の pkt 形式のファイルではなく、2 つの pkt 形式ファイル (CNETBRUS.pkt と CNETMNUS.pkt) が収容されている tar アーカイブです。

これら 2 つのファイルを CNETCMUS.pkt ファイルから解凍し、fwupdate コマンドを使用して拡張管理モジュールのファームウェアを更新します。

## 複数のアラート ID が指定されていると setalertrigger コマンドが失敗する。

コマンドラインで複数のアラートが指定された場合、setalertrigger コマンドは失敗してアラートを使用可能または使用不可にできません。

この問題を回避するために、複数のアラートを指定して setalertrigger コマンドを発行しないでください。

```
setalertrigger -enabled critical.temp, critical.voltage, critical.power_supply
```

代わりに、次のようにして、それぞれ単一のアラートを指定する setalertrigger コマンドを複数回発行してください。

```
setalertrigger -enabled critical.temp  
setalertrigger -enabled critical.voltage  
setalertrigger -enabled critical.power_supply
```

## ベースボード管理コントローラー管理対象オブジェクトに対する管理プロセッサ・アシスタント・コマンドライン・インターフェース・タスクが失敗する。

IBM Director コンソール内のベースボード管理コントローラー (BMC) 管理対象オブジェクトから管理プロセッサ・アシスタント・コマンドライン・インターフェース (MPCLI) の開始を試みたとき、BMC 管理対象オブジェクトにログオンしません。

BMC 管理対象オブジェクトにログオンするためには、次のように MPCLI **logonip** コマンドを発行します。

```
logonip -hostname IHost -u IPuserid -p IPpassword -t ipmi
```

ここで、

- *IHost* はドメイン・ネーム・システム (DNS) またはホストの IP アドレスです。
- *IPuserid* は管理特権を持つユーザー ID です。
- *IPpassword* はユーザー ID に対するパスワードです。

**logonip** コマンドについて詳しくは、「*IBM Management Processor Command-Line Interface User's Guide*」

([http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_r\\_printable\\_pdf\\_files.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_r_printable_pdf_files.html) からダウンロード可能) を参照してください。

## **SUSE LINUX または Red Hat Linux が稼働する一部の xSeries サーバーでシステム・ヘルス・タスクが機能しない。**

SUSE LINUX Enterprise Server 9、Service Pack 3 (32-bit および 64-bit edition) または Red Hat Enterprise Linux AS、バージョン 4、Service Pack 3 (32-bit および 64-bit edition) が稼働し、ベースボード管理コントローラーがインストールされている一部の xSeries サーバーでシステム・ヘルス・タスクが機能しません。この問題は、xSeries 236、xSeries 260、xSeries 336、xSeries 346、および xSeries 366 の xSeries サーバーに影響します。

この問題を解決するには、ご使用のサーバー用の最新 OSA IPMI デバイス・ドライバーを [www.ibm.com/pc/support/site.wss/product.do?brandind=8&template=%2Fproductselection%2Flandingpages%2FdownloadsDriversLandingPage.vm&validate=true](http://www.ibm.com/pc/support/site.wss/product.do?brandind=8&template=%2Fproductselection%2Flandingpages%2FdownloadsDriversLandingPage.vm&validate=true) からダウンロードして、インストールしてください。

---

## 第 4 章 資料の更新

IBM Director 5.10 オンライン・ヘルプに記載されていない可能性がある IBM Director 5.10 アップデート 2 資料の更新は IBM Director インフォメーション・センター

([http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0\\_main.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/diricinfo/fqm0_main.html)) で見ることができます。IBM Director インフォメーション・センターでは、印刷版およびオンラインの資料に対する更新を提供します。

翻訳された情報を使用するユーザーは、以下の事実を考慮に入れてください。

- IBM Director 5.10 アップデート 2 に関する IBM Director インフォメーション・センター更新情報は、英語のみで提供され、その他の言語に翻訳されていません。
- 英語の資料はテクニカル・レビューアーにより承認され、翻訳された資料よりも頻繁に更新されます。翻訳された資料と英語の資料の間で矛盾が生じる場合は、英語の資料を信頼してください。

このセクションには、IBM Director オンライン・ヘルプ、IBM Director インフォメーション・センター、あるいは入手またはアクセスが可能な印刷版の IBM Director 資料に記載されていない可能性がある資料の更新について説明します。

---

### VMware 用の SNMP アクセスおよびトラップ転送を使用可能にする

IBM Director 5.10.2 は、VMware ESX Server での SNMP アクセスおよびトラップ転送をサポートし、VMware ESX Server バージョン 2.5.2 に標準装備されている ucd-snmp バージョンと相互運用できます。

下記の説明は、VMware ESX Server での IBM Director SNMP サポートの使用にのみ適用されます。その他の Linux インストール済み環境での SNMP 構成の手順は、*IBM Director* インストールおよび構成ガイドに記載されています。

VMware を実行する管理対象システムの SNMP アクセスおよびトラップ転送を使用可能にするには、以下の手順を完了します。

1. net-snmp-5.2.1.tar.gz ファイルを Net-SNMP Web サイト ([www.net-snmp.org/download.html](http://www.net-snmp.org/download.html)) からダウンロードします。
2. 以下のステップを実行し、Net-SNMP ライブラリーを作成してインストールします。

**注:**

- この手順では、Net-SNMP のフルインストールは実行しません。IBM Director コア・サービス SNMP 機能に必要な Net-SNMP ライブラリーのみをインストールします。
- その他のインストール情報については、net-snmp-5.2.1.tar.gz パッケージに組み込まれている INSTALL および README ファイルを参照してください。
  - a. ソース・ファイルを untar します。次のコマンドを入力して **Enter** を押します。

- ```
tar -xvzf net-snmp-5.2.1.tar.gz
```
- b. ソース・ディレクトリーに移動します。 次のコマンドを入力して **Enter** を押します。
 

```
cd net-snmp-5.2.1
```
  - c. デフォルト・オプションで Net-SNMP ライブラリーを作成します。 以下のコマンドを入力します (それぞれの後に **Enter** を押します)。
 

```
./configure --with-defaults
make
```
  - d. Net-SNMP ライブラリーを /usr/local/lib のみにインストールします。 次のコマンドを入力して **Enter** を押します。
 

```
make installlibs
```
3. トラップ転送を使用可能にするには、/etc/init.d/dacimlist ファイルを編集して、「SNMP End Consumer」セクションで次の 2 行のコメントを外します。
 

```
LD_LIBRARY_PATH=/usr/local/lib
export LD_LIBRARY_PATH
```

**注:** 構成変更は、ステップ 7で cimlistener デーモンを再始動するまで有効になりません。
  4. SNMP アクセスを使用可能にするには、/etc/init.d/dasnmpp ファイルを編集して、net-snmp ライブラリーの場所に関するセクションで次の 2 行のコメントを外します。
 

```
LD_LIBRARY_PATH=/usr/local/lib
export LD_LIBRARY_PATH
```
  5. VMware 管理インターフェースを使用して、VMware に標準装備されている SNMP デーモンを構成して、AgentX エージェントをサポートします。 詳しくは、VMware 資料 ([www.vmware.com/support/pubs/esx\\_pubs.html](http://www.vmware.com/support/pubs/esx_pubs.html)) を参照してください。
  6. ファイル /usr/local/share/snmp/snmpd.conf を作成して、trapsink および trapcommunity 設定を指定します。 ディレクトリーを作成する必要があります。 このファイルには、trapcommunity および trapsink の設定のみが含まれている必要があります。
    - a. 次の例のように、単語 trapcommunity、その後続くスペース、および trapcommunity 値が入った行を追加することによってトラップ・コミュニティ値を指定します。
 

```
trapcommunity public
```
    - b. IBM Director が SNMP トラップを送信する宛先ごとに trapsink 値を指定します。 次の例のように、単語 trapsink、その後続くスペース、および trapsink 値が入った行を追加します。
 

```
trapsink 192.168.1.1
```
  7. 以下のコマンドを入力し、それぞれの後に **Enter** を押して、cimlistener デーモンを再始動します。
 

```
/etc/init.d/dacimlist stop
/etc/init.d/dacimlist start
```
  8. 以下のコマンドを入力し、それぞれの後に **Enter** を押して、IBM Director AgentX サブエージェントを再始動します。

```
/etc/init.d/dasmp stop  
/etc/init.d/dasmp start
```



## 付録 A. 関連情報

このトピックでは、IBM Director に関する追加情報のリンクをまとめています。

### WWW 上の IBM Director のリソース

以下の Web ページでは、IBM Director およびその他のシステム管理ツールの理解、使用、およびトラブルシューティングに役立つリソースが掲載されています。

#### IBM Director インフォメーション・センター

[publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0\\_main.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_main.html)

IBM Director インフォメーション・センターは定期的に更新され、広範囲なトピックにわたる最新の資料を参照できます。

#### IBM Director Web サイト (ibm.com®)

[www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems\\_management/ibm\\_director/](http://www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems_management/ibm_director/)

IBM Director Web サイト (ibm.com)には、現在サポートされているすべてのバージョンの IBM Director に関するダウンロードおよび文書へのリンクがあります。このサイトの情報は以下のとおりです。

- 次のIBM Director リリースのダウンロードと資料
  - IBM Director 5.10 アップデート 2 (5.10.2)
  - IBM Director 5.10 アップデート 1 (5.10.1)
  - IBM Director 5.10
  - IBM Director 4.22
  - IBM Director 4.22 上位統合モジュール (UIM)
  - IBM Director 4.21
  - IBM Director 4.20
- IBM Director ハードウェアおよびソフトウェアの互換性資料。サポートされている および IBM xSeries システムと、サポートされているすべてのオペレーティング・システムがリストされています。6 週間から 8 週間ごとに更新されます。
- IBM Director の PDF 資料 ささまざまな言語で Portable Document Format (PDF) 形式のものが用意されています。

#### IBM Director Software Developers Kit インフォメーション・センター

[publib.boulder.ibm.com/infocenter/dirinfo/toolkit/index.jsp](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dirinfo/toolkit/index.jsp)

IBM Director Software Developers Kit (SDK) インフォメーション・センターは、IBM Director SDK に関する情報を提供します。これは、API および CLI の使用、タスクの作成、および IBM Director ユーザー・インターフェースからのツールの起動によって IBM Director の機能を拡張する上で役立つ一連のツールと資料です。

#### IBM Systems ソフトウェア・インフォメーション・センター

[www.ibm.com/servers/library/infocenter/](http://www.ibm.com/servers/library/infocenter/)

この Web ページには、IBM Virtualization Engine、IBM Director、およびその他のトピックについての情報が用意されています。

## IBM ServerProven ページ

[www.ibm.com/servers/eserver/serverproven/compat/us/](http://www.ibm.com/servers/eserver/serverproven/compat/us/)

この Web ページには、IBM Director との IBM xSeries、BladeCenter、および IntelliStation ハードウェア互換性についての情報が用意されています。

## IBM サーバー

[www.ibm.com/servers/](http://www.ibm.com/servers/)

ibm.com の Web ページには、IBM サーバー用の情報、ダウンロード、および Remote Deployment Manager、キャパシティー・マネージャー、システム稼働状況、およびソフトウェア配布 (Premium Edition) などの IBM Director Extensions へのリンクがあります。

- IBM BladeCenter
- IBM System i
- IBM System p
- IBM xSeries
- IBM System z

## IBM Virtualization Engine システム・サービスのフィックス

[techsupport.services.ibm.com/server/VirtualizationEngine](http://techsupport.services.ibm.com/server/VirtualizationEngine)

この Web ページは、Virtualization Engine システム・サービスに必要なフィックスに関する情報を提供します。フィックスには、システム・サービスに必要なオペレーティング・システムのフィックスと、それぞれのシステム・サービスが正常に機能するために必要なアプリケーション・レベルのフィックスが含まれています。

## IBM フォーラム

[www.ibm.com/developerworks/forums/dw\\_esforums.jsp](http://www.ibm.com/developerworks/forums/dw_esforums.jsp)

この ibm.com 上の Web ページは、Web ページとして使用可能ないくつかのフォーラム、あるいは IBM サーバーに関連した技術的な問題を討議するユーザーのための Rich Site Summary (RSS) フィードを使用したフォーラムへリンクしています。

これらのフォーラムの中の 3 つは、IBM Director ユーザーにとって特に有益です。

### xSeries IBM Director フォーラム

[www.ibm.com/developerworks/forums/dw\\_forum.jsp?forum=759&cat=53](http://www.ibm.com/developerworks/forums/dw_forum.jsp?forum=759&cat=53)

IBM Director のどのようなトピックも討議できるフォーラムです。この Web ページには、RSS フィードを使用したフォーラムへのリンクがあります。

### xSeries サーバーのフォーラム

[www.ibm.com/developerworks/forums/dw\\_forum.jsp?forum=740&cat=53](http://www.ibm.com/developerworks/forums/dw_forum.jsp?forum=740&cat=53)

xSeries サーバーのトピック (ドライバー、ファームウェア、オペレーティング・システム、クラスタリング、およびストレージに関連した質問を含む) を討議するフォーラムです。この Web ページには、RSS フィード経由でフォーラムにつながるリンクがあります。

### IBM Director SDK フォーラム

[www.ibm.com/developerworks/forums/dw\\_forum.jsp?forum=849&cat=53](http://www.ibm.com/developerworks/forums/dw_forum.jsp?forum=849&cat=53)

特定のニーズに対応するために IBM Director SDK を使用して IBM Director の機能を拡張する方法について討議するフォーラムです。この Web ページには、RSS フィード経由でフォーラムにつながるリンクがあります。

## IBM Redbooks™

以下の資料を IBM Redbooks Web ページからダウンロードできます。また、この Web ページで、特定の IBM ハードウェア資料、たとえばシステム管理に関する情報にフォーカスした資料などを検索できます。

**注:** 資料の発行日に注意して、その IBM Director ソフトウェアのレベルと Redbooks 資料が参照しているレベルを判断してください。

- *Creating a Report of the Tables in the IBM Director 4.1 Database* (TIPS0185)
- *IBM Director Security* (REDP-0417)
- *IBM BladeCenter Systems Management with IBM Director V4.1 and Remote Deployment Manager V4.1* (REDP-3776)
- *Implementing Systems Management Solutions using IBM Director* (SG24-6188)
- *Integrating IBM Director with Enterprise Management Solutions* (SG24-5388)
- *Managing IBM TotalStorage NAS with IBM Director* (SG24-6830)
- *Monitoring Redundant Uninterruptible Power Supplies Using IBM Director* (REDP-3827)

## リモート管理アダプター

### リモート管理アダプター概説

[www.ibm.com/support/docview.wss?uid=psg1MIGR-4UKSML](http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=psg1MIGR-4UKSML)

この Web ページには、「*Remote Supervisor Adapter User's Guide*」および「*Remote Supervisor Adapter Installation Guide*」へのリンクが掲載されています。

### リモート管理アダプター II 概説

[www.ibm.com/support/docview.wss?uid=psg1MIGR-50116](http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=psg1MIGR-50116)

この Web ページには、リモート管理アダプター II についての情報が掲載されています。

## その他の資料

計画については、以下の資料が参考になります。

- *Planning and Installation Guide - IBM BladeCenter (Type 8677)*
- *IBM Management Processor Command-Line Interface (MPCLI) User's Guide version 5.10*



---

## 付録 B. カスタマー・サポートへの連絡

ヘルプ、サービス、技術支援、または IBM 製品に関する詳しい情報が必要な場合は、IBM がさまざまな形で提供している支援をご利用いただけます。ここでは、IBM および IBM 製品に関する追加情報を得るにはどうすればよいか、ご使用のシステムで問題が発生した場合の対処方法、および、サービスが必要になった場合の連絡先について記載します。

利用可能なサービスと、リストにある電話番号は、予告なしに変更される場合があります。

---

### 依頼する前に

問題の中には、外部の支援を受けなくても解決できるものがあります。IBM Director に付属するオンラインの資料や印刷された資料を参照したり、IBM サポートのホーム Web サイトにアクセスします。また、IBM Director に付属のリリース情報や Readme ファイルに記載されている内容を必ずお読みください。

多くの問題は、IBM のシステムやソフトウェアに付属のオンライン・ヘルプおよび説明資料に記載のトラブルシューティング手順を実行することで解決することができます。

ご使用のシステムに付属の資料には、ユーザーが実行できる診断テストについても記載しています。大部分のハードウェア・システム、オペレーティング・システム、およびプログラムには、トラブルシューティング手順やエラー・メッセージおよびエラー・コードに関する説明書が付属しています。ソフトウェアの問題だと考えられる場合は、オペレーティング・システムまたはプログラムの資料を参照してください。

---

### オンライン・ヘルプの入手

IBM は IBM 製品とサービスに関する情報を提供するワールド・ワイド・ウェブのページを保守しています。これらのページでは最新の技術情報も提供します。表 5 は、そのページの一部をリストにしたものです。

表 5. サポート Web サイト

|                                                                                                                                                                              |                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| <a href="http://www.ibm.com/">www.ibm.com/</a>                                                                                                                               | メインの IBM ホーム・ページ                                  |
| <a href="http://www.ibm.com/servers/">www.ibm.com/servers/</a>                                                                                                               | IBM eServer のホーム・ページ                              |
| <a href="http://www.ibm.com/pc/support/">www.ibm.com/pc/support/</a>                                                                                                         | IBM サポート・ページ                                      |
| <a href="http://www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems_management/ibm_director/">www.ibm.com/servers/eserver/xseries/systems_management/ibm_director/</a>               | IBM Director ホーム・ページ (ユーザー・サポートおよび技術フォーラムへのリンクあり) |
| <a href="http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_main.html">publib.boulder.ibm.com/infocenter/eserver/v1r2/topic/dirinfo/fqm0_main.html</a> | IBM Director インフォメーション・センター                       |

---

## 電話によるヘルプの入手

IBM サポート・ラインを使用すると、xSeries サーバー、IntelliStation ワークステーション、および装置の使用法、構成、およびソフトウェアの問題について、電話による援助を有料で受けることができます。使用する国または地域で、サポート・ラインがサポートする製品について詳しくは、

<http://www.ibm.com/jp/servers/eserver/xseries/service/xsupportline.shtml> をご覧ください。

サポート・ラインおよび各種の IBM サービスについて詳しくは、[www.ibm.com/services/](http://www.ibm.com/services/) をご覧になるか、あるいは [www.ibm.com/planetwide/](http://www.ibm.com/planetwide/) で、サポート電話番号をご覧ください。米国およびカナダの場合は、1-800-IBM-SERV (1-800-426-7378) に電話してください。

---

## 付録 C. 特記事項および商標

ここでは、特記事項と商標の情報を提供します。

---

### 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032  
東京都港区六本木 3-2-31  
IBM World Trade Asia Corporation  
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

© Copyright IBM Corp. 2004 439 本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
MW9A/050  
5600 Cottle Road  
San Jose, CA 95193  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

---

## 商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

AIX  
Asset ID™  
BladeCenter  
Enterprise Storage Server®  
eServer  
eServer ロゴ  
i5/OS  
IBM  
IBM ロゴ  
ibm.com  
IntelliStation  
iSeries  
Netfinity®  
pSeries®

Redbooks  
S/390®  
ServeRAID  
ServerProven  
System i  
System p  
System z  
System z9™  
Tivoli  
TotalStorage  
Virtualization Engine  
xSeries  
z/VM®  
z9  
zSeries

Cisco は、Cisco Systems, Inc. およびその関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel および Pentium® は Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java™ およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT®、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Red Hat およびすべての Red Hat ベースの商標とロゴは Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。







Printed in Japan